

# PD候補の基本方針と国内関連政策との関係

- 国内関連政策における3つの重点（エコデザイン・データ連携・バイオプラ）に対して、PD候補の方針・戦略が整合

## 国内政策動向（プラスチック循環に関する主な動向を抜粋）

## 伊藤PD候補の戦略・方針

2019年5月

### プラスチック資源循環戦略

- ✓ 2025年までにリユース・リサイクル可能なデザインに
- ✓ 2030年までに容器包装の6割をリユース・リサイクル
- ✓ 2035年までに使用済プラスチックを100%リユース・リサイクル等により、有効利用
- ✓ 2030年までに再生利用を倍増
- ✓ 2030年までにバイオマスプラスチックを約200万トン導入

2020年5月

### 循環経済ビジョン2020

- ✓ 海洋プラ問題、欧州プラ戦略・CEアクションプランと整合
- ✓ 循環性の高いビジネスモデルへの転換（動静脈連携）
- ✓ 「循環システムの検討が急がれる分野」⇒プラスチック、繊維、CFRP・・・

2022年4月

### プラ循環法資源循環促進法（施行）

- ✓ 製造事業者等が務めるべき環境配慮設計に関する指針を策定し、指針に適合した製品であることを認定する仕組みを設ける
- ✓ 自治体、製造・販売事業者・排出事業者のそれぞれが回収・再資源化しやすい仕組みづくり

2022年7月

### 循環経済工程表（案）

- ✓ デジタル技術を活用したトレーサビリティの担保・循環経済関連ビジネス基盤  
-プラスチック資源循環法に基づく3R+Renewable、市場ルールの形成
- ✓ バリューチェーン全体でのロスゼロ  
-再生材の活用・新規投入のバイオマス化、熱回収徹底
- ✓ 循環経済関連ビジネス80兆円以上

### ライフサイクルエコデザイン

- 材料・製品のデザイン
  - ・脱ワンウェイ
  - ・脱架橋（動的架橋・脱加硫）
  - ・脱多層（モノマテリアル化）
- 分別・分解技術の向上（易分解可能な分子・材料）
- 耐久性の向上（易修復性）

焼却率の低下

連携

### データ連携基盤

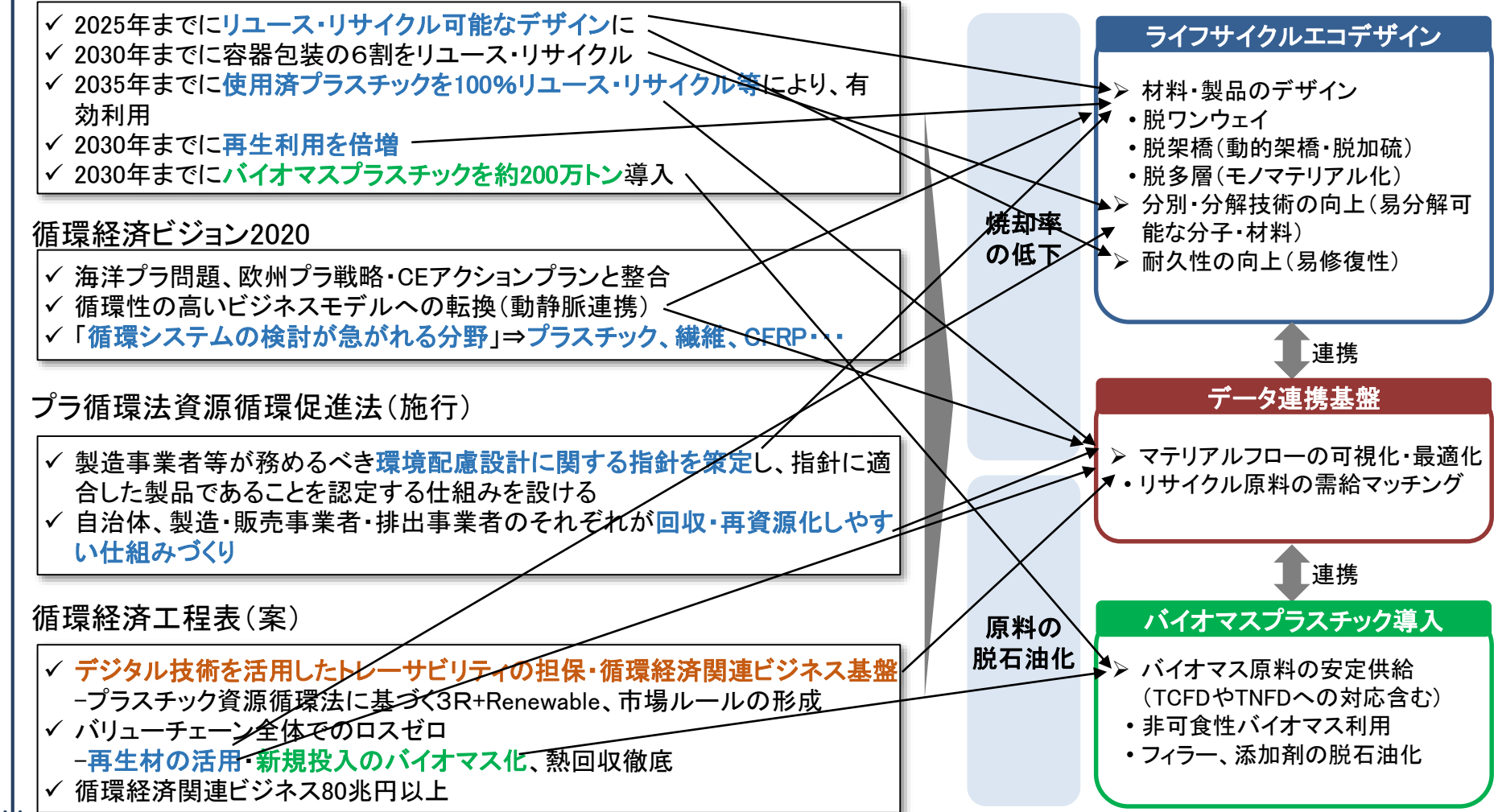
- マテリアルフローの可視化・最適化
- リサイクル原料の需給マッチング

連携

### バイオマスプラスチック導入

- バイオマス原料の安定供給（TCFDやTNFDへの対応含む）
- ・非可食性バイオマス利用
- ・フィラー、添加剤の脱石油化

原料の脱石油化



## RFI（情報提供依頼）への対応

Step1

テーマ領域設定

- ✓ 提出されたRFI(77件)
- ✓ 基本方針から3つのテーマ領域を仮設定
- ✓ RFIからテーマ領域に個別テーマを仮設定

Step2

有識者評価

- ✓ RFIからヒアリング対象を有識者評価により選定
- ✓ 有識者による5段階評価を実施
- ✓ 評価結果から一定評価以上をピックアップ(36機関)

Step3

事業者ヒアリング

- ✓ PD候補、SPD候補によるヒアリングの実施
- ✓ また、RFIに提案のない事業者もヒアリングを実施
- ✓ ヒアリング実施事業者(28機関)

Step4

FS実施方針へ反映

- ✓ 3つのテーマ領域を設定  
~競争領域(2)、協調領域(1)~
- ✓ RFI、それ以外の提案を踏まえ個別テーマ(10)を設定
- ✓ 大学等へのヒアリングを継続

Step5

FS実施方針案作成

- ✓ 個別テーマ(10)に担当機関を仮設定
- ✓ **検討TFで実施方針を決定**  
(7/29)

Step6

調査分析機関とFS担当機関と契約

- ✓ 調査分析機関とFS担当機関とで契約を締結
- ✓ 順次、FSを実施

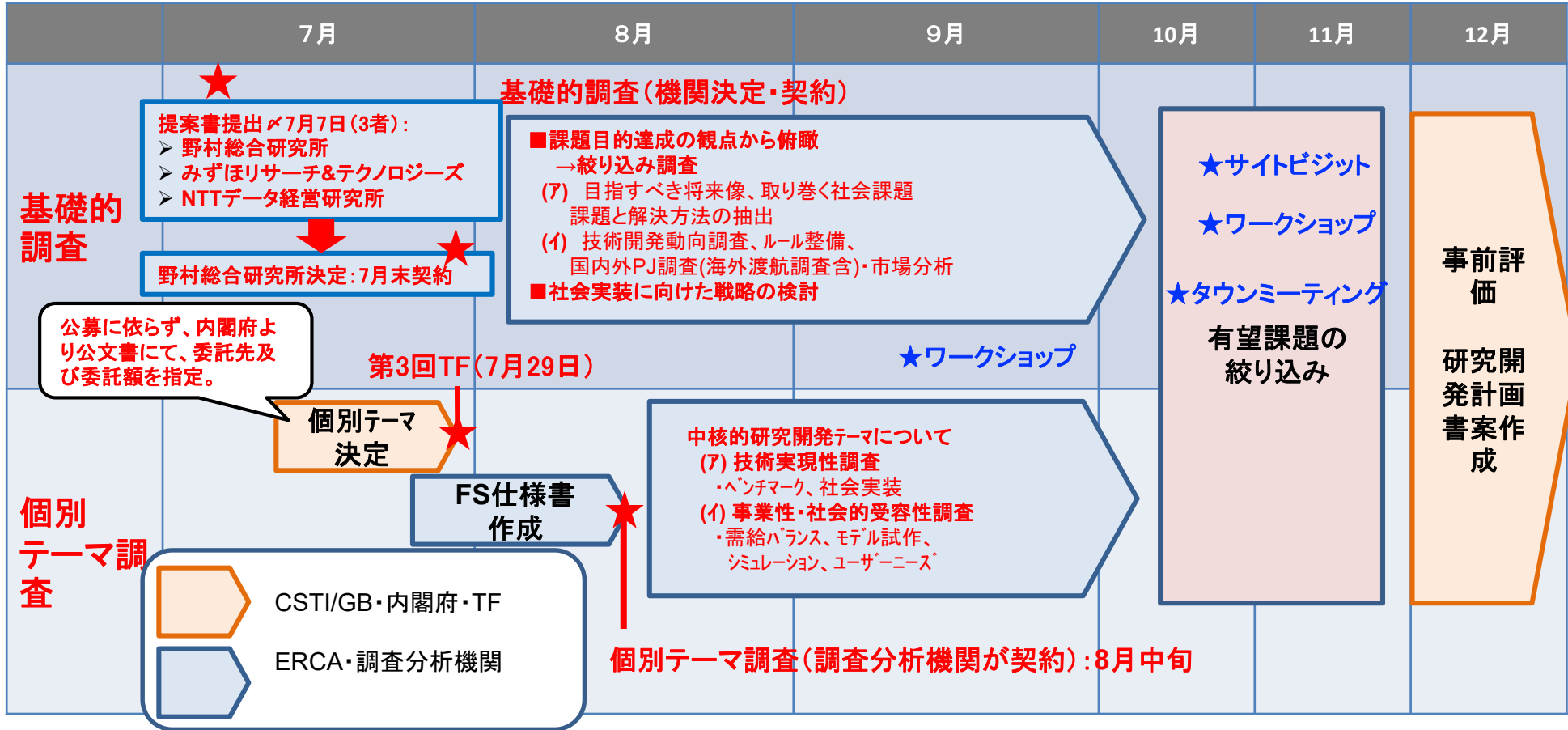
## FS実施方針における個別テーマ

- |                         |                         |
|-------------------------|-------------------------|
| ①産業用途財 B to B           | ⑥消費者の行動変容(社会システム)       |
| ②一般消費財 B to C           | ⑦リサイクル技術                |
| ③資源循環における<br>リサーチインフラ   | ⑧自治体                    |
| ④データ統合型サーキュラ<br>ーシステム   | ⑨選別技術                   |
| ⑤トレーサビリティ・自然<br>資本リスク評価 | ⑩資源循環プラスチック素材<br>将来ビジョン |

## FS個別テーマと担当機関

研究開発テーマ候補	概要	担当機関
①産業用途材料 B to B	<b>産業用途</b> として、サーキュラーエコノミーとカーボンニュートラルの相乗効果を目指し、再利用可能な素材設計を原子・分子スケールから開発するための研究開発の目途付けを行う。	東レ、三菱ケミカル、旭化成、帝人
②一般消費財用途 B to C	<b>一般消費財用途</b> として、サーキュラーエコノミーとカーボンニュートラルの相乗効果を目指し、再利用可能な素材設計を原子・分子スケールから開発するための研究開発の目途付けを行う。	三菱ケミカル、エプソン
③資源循環におけるリサーチインフラ	<b>次世代放射光</b> 等を活用した疲労・劣化の評価、架橋形態の変化観察、また <b>富岳</b> やMI等を活用した数値予測、データ駆動材料開発の目途付けを行う。	ブリヂストン、三菱ケミカル、東レ
④データ統合型サーキュラーシステム	プラスチックにおけるマテリアルフローの可視化・最適化のため、サプライチェーンの各段階でのデータを統合した <b>情報共有プラットフォーム</b> を構築するための調査を行う。	アマタ、三菱総研、産総研
⑤トレーサビリティ・自然資本リスク評価	各社独自のプロトコルによって公表されている分別情報等を、一定のプロトコルに従って整理する。また、バリューチェーン上流での <b>原材料調達段階における生物多様性への影響評価</b> を行う。	旭化成、国環研・NTTデータ
⑥消費者の行動変容（社会システム）	<b>消費者の行動変容</b> に着目・アプローチすることで、生産者側の取組をより効果的なものにして相互の取組からプラスチックの資源循環を目指すべく、現況を調査する。	東京大学、京都大学
⑦リサイクル技術	既存プロセス（モノマー化、ガス化、油化）の <b>原料の多様化、効率改善</b> に向けて研究開発を行うための計画を立案する。	日揮、荏原製作所、神鋼環境ソリューション
⑧自治体	自治体に高度分別回収拠点を設け、各拠点において、廃棄物に情報を付与し、 <b>デジタルによる分別の高度化</b> を図るための方策を検討する。	アマタ
⑨選別技術	リサイクルの質の向上を図るため、混合プラの選別技術の応用可能性範囲を検証するなど、 <b>選別技術の高度化</b> についての提案を行う。	パナソニック、三菱電機
⑩資源循環プラスチック素材の将来ビジョン提案	課題全体を俯瞰し、他のサブ課題と連携しつつ、国の施策との連携を図りながら、プラスチックにおけるサーキュラーエコノミーを一層促進していくための <b>将来ビジョンを検討・提案</b> する。	野村総研

# 今後のスケジュール



「サーキュラーエコノミーシステムの構築」への内閣府予算:2億円  
(基礎的調査+個別テーマ10課題:1.8億円)

★ワークショップ(CE、TCND・TNFD、計測・計算融合)

★タウンミーティング(東京ドーム ラクア広場)

★サイトビジット(関東地方と東北地方のプラ処理施設等の見学)